

露國が廣大なる西比利亞を侵略拓殖し得たるは、哈薩克に負ふ所少なからざるべし。然り哈薩克の殘忍暴戾は、獨り露國の爲めの貢獻となりしに徴するも如何に露國が能く彼等を撫綏せしかを知るに足らん。

移轉の原  
因

現時天山北路の山野に游牧する約三十萬の哈薩克は、即ち此のドン、ウオルガの哈薩克中より脱離し來たりしものなり。今其の所以を查するに、彼等は露國の宗教干涉と、租稅徵收とに對して、不快の感に堪へず。遂に千六百年頃、一部の同志相率ゐ、ドン、ウオルガの部落を脱し、水草を追ふて東に向ひ、西伯利に游牧したりしが、漸次支那北境に來りて、吉爾幾思に歸屬し、次で準噶爾に服従したるなり。

斯くて新疆西北地方の水草豊富なるに加へて、清廷の寛大なる、敢て宗教の自由を妨げざるに因り、其の故郷ドン、ウオルガの哈薩克は、皆之を聞き傳へ、先到の同胞を慕ひて、年々投來する者陸續相踵ぎ、從て其の子孫漸次繁殖して、遂に現今の如き人口とは爲りぬ。

相貌

哈薩克は體軀稍大にして、殊に北部には肥滿長身の者多し。其面は平たく且つ廣く、頬骨少しく秀で、細目隆準、顔色淡黑肩張りて威風を存す。